

2014年7月30日 全5頁

## Indicators Update

# 6月鉱工業生産

### コンセンサスを下回るネガティブな結果

エコノミック・インテリジェンス・チーム  
エコノミスト 橋本 政彦

#### [要約]

- 2014年6月の生産指数は、前月比▲3.3%と2ヶ月ぶりの低下となった。市場コンセンサス（同▲1.2%）から大きく下振れしており、ネガティブな結果である。鉱工業生産は2014年1月をピークに減速していたが、さらに減速傾向を強めている。出荷指数は同▲1.9%と5ヶ月連続で低下し、在庫指数は同+1.9%と2ヶ月連続で上昇したことから、在庫率指数は同+3.5%と2ヶ月連続の上昇となった。
- 6月の生産指数を業種別に見ると、「その他工業」を除く全ての業種で低下した。前月時点の製造工業生産予測調査で半数以上の業種が6月の増産を見込んでいたにもかかわらず、大半の業種で生産が減少しており、非常に悪い内容。生産全体への寄与を見ると、輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、情報通信機械工業による押し下げが大きかった。
- 製造工業生産予測調査では、7月の生産計画は前月比+2.5%、8月は同+1.1%となり、先行きについては持ち直しへ向かう見通しとなった。生産計画を業種別に見ると、7月は加工業種の多くが減産を見込む中、はん用・生産用・業務用機械工業、および化学工業の高い伸びが生産を押し上げる見通しとなっている。一方、8月については、広い業種で生産の持ち直しが見込まれている。

#### 鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2013年				2014年					
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
鉱工業生産	1.5	0.6	0.3	0.5	3.9	▲2.3	0.7	▲2.8	0.7	▲3.3
コンセンサス										▲1.2
DIR予想										▲0.7
生産者出荷	1.7	1.3	0.1	0.2	5.1	▲1.0	▲0.2	▲5.0	▲1.0	▲1.9
生産者在庫	▲0.1	▲0.3	▲1.4	▲0.2	▲0.4	▲0.9	1.4	▲0.5	3.0	1.9
生産者在庫率	▲2.3	▲2.5	▲1.1	▲0.2	▲4.6	3.9	2.1	▲1.6	4.0	3.5

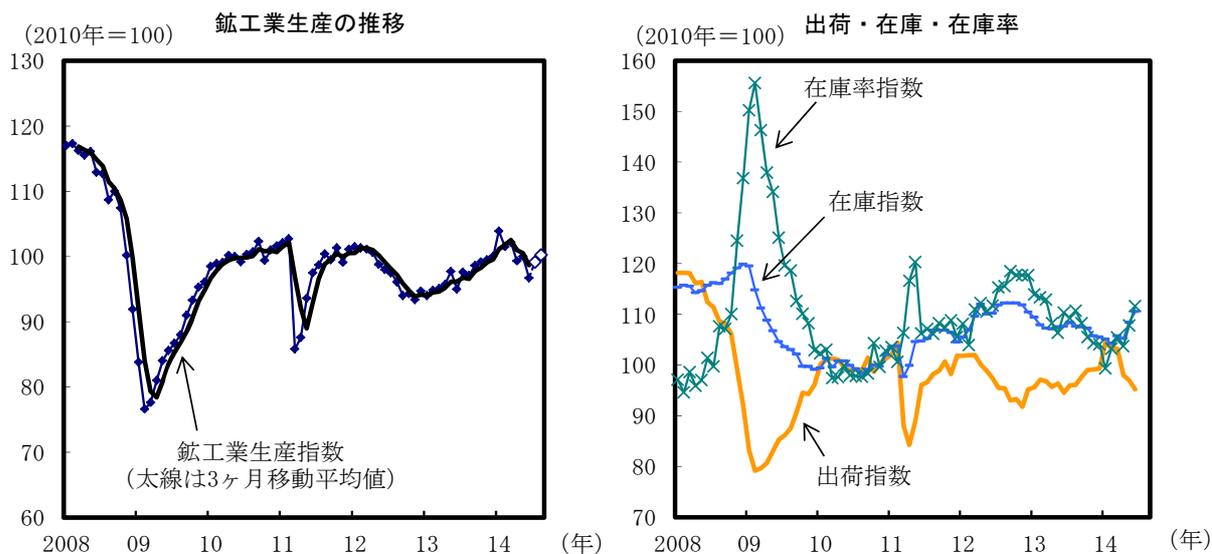
(注) コンセンサスはBloomberg。

(出所) 経済産業省、Bloombergより大和総研作成

## 2014年6月の生産指数はコンセンサスから大きく下振れ

2014年6月の生産指数は、前月比▲3.3%と2ヶ月ぶりの低下となった。市場コンセンサス(同▲1.2%)から大きく下振れしており、ネガティブな結果である。鉱工業生産は2014年1月をピークに減速していたが、さらに減速傾向を強めている。出荷指数は同▲1.9%と5ヶ月連続で低下し、在庫指数は同+1.9%と2ヶ月連続で上昇したことから、在庫率指数は同+3.5%と2ヶ月連続の上昇となった。

### 生産・出荷・在庫・在庫率の推移



(注) 鉱工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。  
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 「その他工業」を除く全ての業種で生産指数が低下

6月の生産指数を業種別に見ると、「その他工業」を除く全ての業種で低下した。前月時点の製造工業生産予測調査で半数以上の業種が6月の増産を見込んでいたにもかかわらず、大半の業種で生産が減少しており、非常に悪い内容。生産全体への寄与を見ると、輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業、情報通信機械工業による押し下げが大きかった。

輸送機械工業は前月比▲3.4%と2ヶ月ぶりの減少となった。前月時点の製造工業生産予測調査で6月の減産(同▲4.1%)を見込んでいたため、概ね計画に沿った内容である。増税後の4月に大幅に落ち込んだ新車販売台数は、概ね横ばい圏での推移が続いている。輸出向けも伸び悩む中、出荷指数は前月比▲3.2%と4ヶ月連続で減少しており、出荷の減少傾向が続いていることが生産の下押し要因となっている。

はん用・生産用・業務用機械工業は前月比▲3.0%と2ヶ月連続の減少となった。振れが大きく、前月大幅に増加していた「反応用機器」が減少したことに加えて、「半導体製造装置」の生産が5ヶ月連続で減少したことが主な減少要因となった。

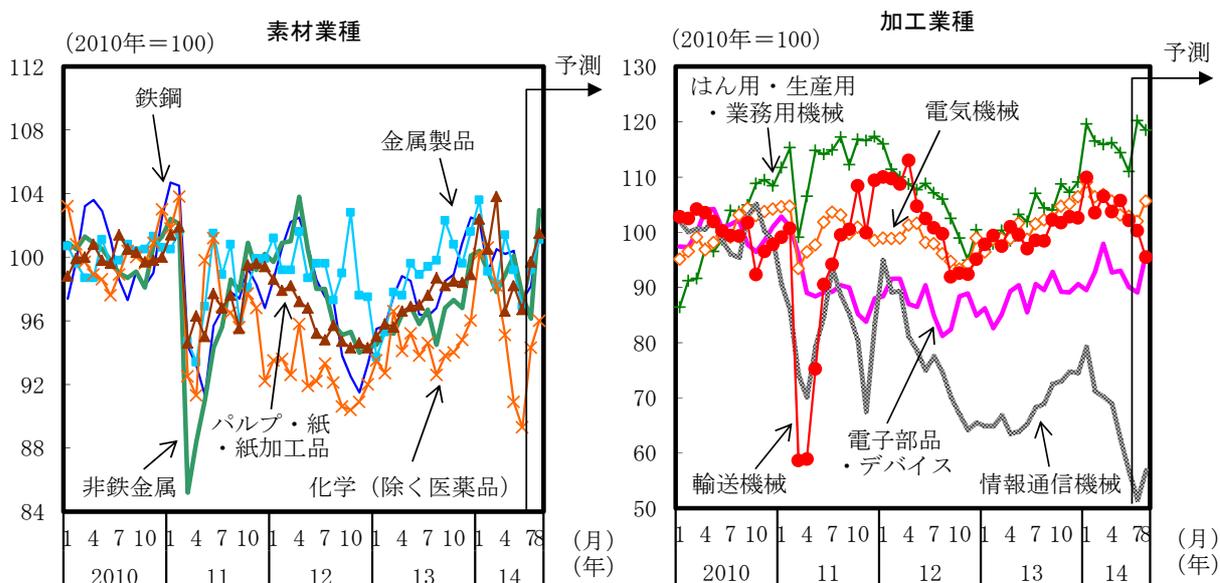
情報通信機械工業は前月比▲9.0%と5ヶ月連続の減少となった。大きく落ち込んだ5月と同様に「デスクトップ型パソコン」が主な減少要因となったが、これは増税後の反動減に加えて、

ウィンドウズ XP のサポート切れに伴う駆け込み需要の反動減が影響しているとみられる。各業種とも足下で生産の減速が見られるが、情報通信機械工業の生産は際立って弱い動きとなっている。

## 7月、8月の生産計画は持ち直し

製造工業生産予測調査では、7月の生産計画は前月比+2.5%、8月は同+1.1%となり、先行きについては持ち直しへ向かう見通しとなった。生産計画を業種別に見ると、7月は加工業種の多くが減産を見込む中、はん用・生産用・業務用機械工業、および化学工業の高い伸びが生産を押し上げる見通しとなっている。一方、8月については、広い業種で生産の持ち直しが見込まれている。ただし、輸送機械工業では7月、8月とも前月比マイナスとなり、生産の減少傾向を見込んでいる点は懸念材料である。輸送機械工業は生産に占めるウエイトが高く、生産全体に与える影響が大きいことから、今後の動向には注視が必要であろう。

### 主要業種の生産推移

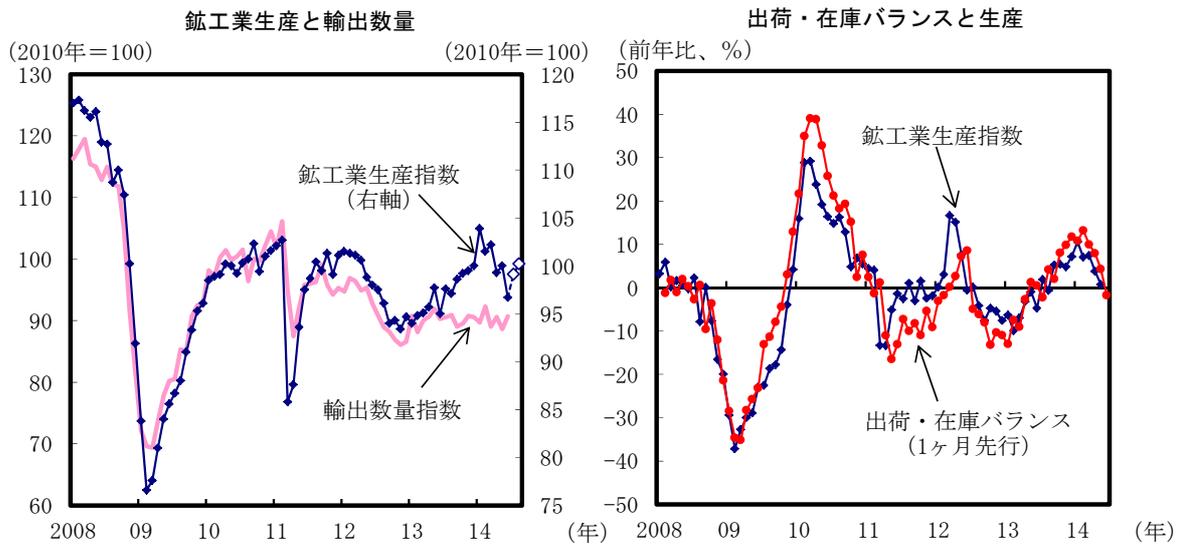


(注) 直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。  
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

## 先行きの生産は緩やかに持ち直しへ

先行きに関しては、生産は緩やかに持ち直しへ向かうと見込んでいる。個人消費の反動減による影響は緩和傾向にあり、生産の下押し圧力は徐々に減衰する見込みである。また、円安の効果や米国を中心とする海外の景気拡大によって輸出は今後増勢を強めるとみられ、輸出の増加が生産を牽引するとみられる。さらに、輸出の増加に伴い設備投資も拡大傾向が続くとみられ、生産を押し上げる見通しである。

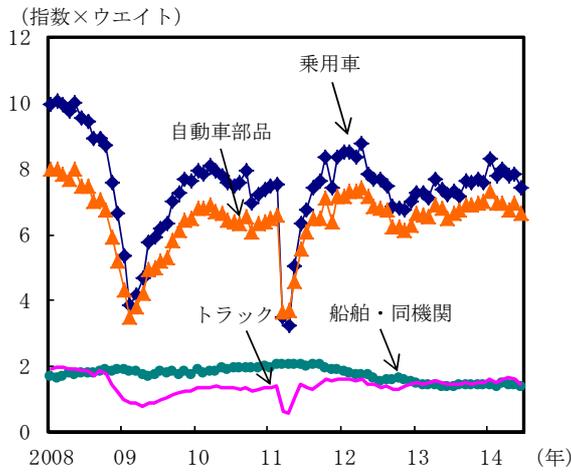
## 輸出数量、出荷・在庫バランスと生産



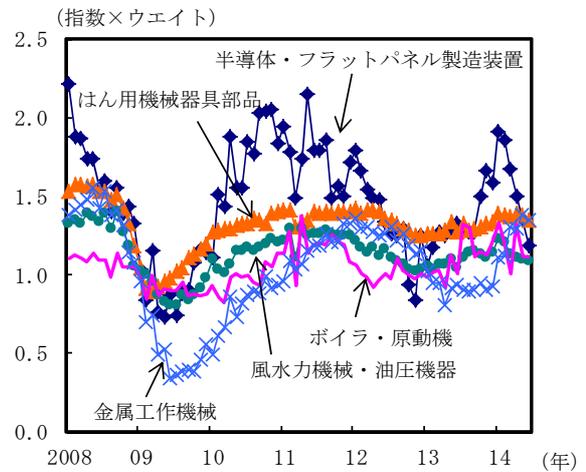
(注) 鉾工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。  
 (出所) 内閣府、経済産業省統計より大和総研作成

主要産業の生産動向(季節調整値)

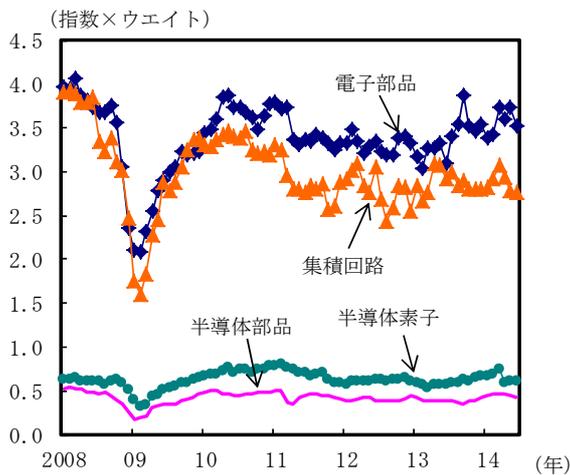
輸送用機械



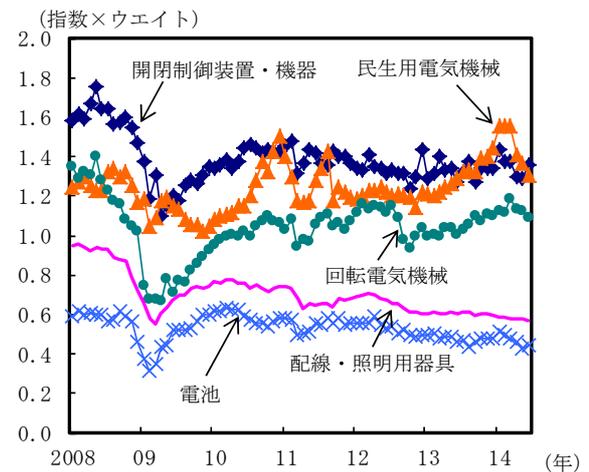
はん用・生産用・業務用機械



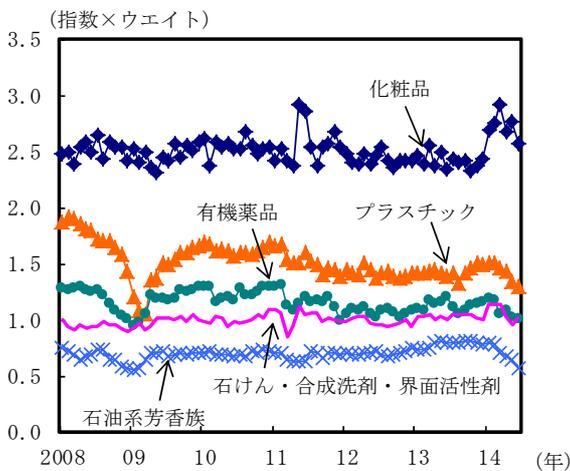
電子部品・デバイス



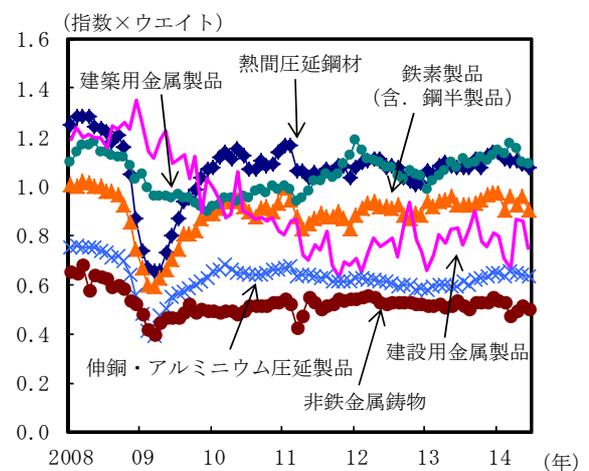
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成